情報のユニバーサルデザイン

○松延拓生（和歌山大学）、門田利彦（㈱キャノン）

Universal Design for Information

Takuo Matsunobe(Wakayama Univ.), Toshihiko Kadota(CANON INC.)

■はじめに

多くの情報が情報機器を通して伝えられるようになっていくと思われる今、誰もが情報を得られることが求められている。誰もが快適な社会生活を送れるように配慮したもののづくりを目標として、ユニバーサルデザインでは高齢者や障害を持つ人へのバリアを取り除くことが多く取り上げられてきた。情報に関して考えるとそれ以外の人にもさまざまなバリアがある。情報弱者という観点で考えると、ディスアビリティ（能力が発揮できない）という重大な問題がある。

今回アーゴデザイン部会合宿における、情報のユニバーサルデザイン（以下情報のUD）では、主にWEBを取り上げその問題について議論した。今回WEBページについて議論したところ、さまざまな不満をみなさん感じていることがわかった。議論のテーマとしては、「WEBサイトのユニバーサルデザイン」、「WEBサイトのユーザビリティについての問題」、「WEBサイトのコンセプトやアクセシビリティ配慮の技術的議論」などである。

■WEBサイトのユニバーサルデザイン

○アクセシビリティへの配慮

- ・サイトを設計する時にアクセシビリティを配慮する
- ・障害者や使用困難なすべてのユーザを対象にする。
- ・何が操作の障害になっているのか調査する。

■WEBサイトのユーザビリティについて

○情報のナビゲーションについて

- ・大事な（求める）情報に如何に早くたどり着けるか
- ・今回問題となったのは検索しやすさ、ナビゲーション、軽く、早く
- ・WEBのディレクトリ設計どおりにユーザはたどらない
- ・きれいなツリー構造に沿ってユーザは進むことは無い
- ・タッチパネルではマウスと同等の操作はできない

この中で今後ますます増えていくと思われるタッチパネルでの操作では現在マウスで操作している場合有効であるポインタの変更、情報の表示が問題となるのではとの指摘があった。離してオンかタッチしてオンかという問題である。この場合現在用いられている、リンクにマウスを置いたときのフィードバックが無くなってしまう。

○情報表現の工夫

- ・情報の取りやすさ
- ・情報にたどり着くナビゲーションの工夫
- ・ロードにかかる時間は早く（数秒が望ましい）
- ・ファイル容量は20k、コーディングにも工夫が必要
- ・ALTタグはわかりやすく簡潔に表現する必要がある、文章力が必要

- ・音声出力では文章表現力がキーとなる
- ・イメージや写真には説明のALTタグをつけること

○使いやすさの情報提供

- ・すでに提供されているツールを誰もが利用できるように解説した情報を提供する
- ・あなたのパソコンに入っているツールを使えるようにしましょう。
- ・ユーザに使用方法を紹介する手段を、例えばアーゴデザイン部会 HP で紹介する。

■WEBサイトのコンセプトやアクセシビリティ配慮の技術的議論

○E コマースについて

- ・ターゲットユーザを想定
- ・購入の手続きは誰でもできること
- ・コンセプト（コスト削減、ブランドイメージ構築・・・）

○ハイパーテキストの課題

- ・リンクのナビゲーションをわかりやすく
- ・検索の入り口をわかりやすく
- ・ホームに戻るリンクを用意する
- ・教科書どおりの階層構造は自己満足
- ・探す情報の入り口を明確に
- ・目的の情報に素早く短時間にたどり着ける
- ・画面上部と左上から下へ辿る
- ・リンクボタンは明確に表示

○ブラウザ

- ・例えばインターネットエクスプローラでのユーザー補助をユーザが知らない（わからない）
- ・表示文字についても文字間隔の設定ができないことがわかりこれはブラウザでの対応が求められるところであった。

○サイトのUI コンセプト

- ・ユーザが自由にカスタマイズできる文字拡大
トピックスとタブの2ルートの検索モード

- ・文字拡大できない（スタイルシート使用）
リンク先のナビゲーションが不親切（イラストのリンクボタン）
見て楽しい、遊び心重視の画面

今回わかったのはWEB ページについてはオペレーション・ナビゲーションとコンテンツは異なるという指摘であった。

■その他の話題

情報のUDということで議論する中で、今回WEB をテーマにしたが他にも興味深い話題が合った。

○携帯電話について

- ・コミュニケーションツールの用途拡大
- ・中高齢者が使えない問題
多機能化、表示が見にくい、操作できない

■まとめ

- ・情報のUDをガイドライン化するには、チェック項目を明確にしていく課程が重要である。使用する現場からの提案や検証も必要である。

- ・W3Cのアクセシビリティガイドラインでは、重度障害者用の音声出力などに重きを置いており福祉向けである。デジタルデバイド（情報格差）の解消には、情報にアクセスできない弱者すべてが対象にすべきで、ユーザの範囲が不十分である。

- ・情報のUD では高齢者・障害者ということではなくディスアビリティを解消することを考えていく。WEB などに対する情報アクセスが十分にできないすべての人を対象に、誰でも使用できるようにアクセスに関わる障害の解決を検討していく。